

## 「市長との座談会」 市民の皆様からの質問や意見交換などの要約

日 時 令和元年12月21日（土）午後2時から

会 場 七谷コミュニティセンター大広間

藤田市長が加茂市行財政健全化推進計画（案）、企画財政課長が資料集（案）を説明し、その後、質問・意見交換を行いました。

（質問・意見） 行財政健全化推進計画（案）による効果額6億円は、清掃センターごみ焼却施設の改修費用に反映されているか。

（加茂市・田上町消防衛生保育組合事務局長） 今後の焼却場の建設について、今のところ方法が決まっていない。ごみを焼却にするのか、しないのか。あるいは他の自治体に頼むのか等を来年度検討する予定。その後、どれくらいの事業費になるのかで決まってくる。

今回の行財政健全化推進計画（案）には入っていない。

（質問・意見） （ごみ焼却施設の計画によっては）6億円が達成できない可能性もあるのか。

（加茂市・田上町消防衛生保育組合事務局長） 例えば、建設することになった場合、来年度、再来年度に基本計画ができる。

その後、場所の選定をする、実際に事業費にあがるのは4～5年後くらい。

最終年度でうまくいっても、10年くらい後でないと完成しないと思う。10年の間の後半に事業費が大きくあがってくる。令和4年度までには事業費はあがってこないと思う。

（質問・意見） この行財政健全化推進計画（案）は災害に備えるというか、急な出費に備えることだと思う。災害になるとよく言われるのが、自助、共助、公助。財政のことであれば今回は公助である。しかし、自助、共助が大事なので、充実するとか組織をつくることも検討してもらいたい。

市の三大赤字「美人の湯」「コミセン」「市民バス」。

12月17日に七谷小6年生が国語の授業で「町の幸福論」を行った。まちの住民が、自らまちづくりに参加する趣旨で始まったもので、小学生20人をグループ分けし、自分たちが住んでいる加茂・七谷はどうか、よりよくするにはどうするかを各グループで考えプレゼンした。

そのなかで、美人の湯について4件、2万年前旧石器公園が3件、水源地、ホテル、加茂まつり、加茂山公園、冬鳥越についてプレゼンがあった。

美人の湯への子どもたちの意見は「はやりのメニューがない」「お風呂の種類が少ない」「はやりのゲームが少ない」などの問題点があった。その改善案として食事に関しては「タピオカをメニューに入れる」「デザートが少ない、アイスなどを加える」「キノコや川魚料理」「メニューは夏バージョンや冬バージョン」。お風呂については「露天風呂に花を植える」。

2万年前旧石器公園については「まわりの人が公園を知らない」「来場者が少ない」「遊び場がない」の問題点をあげ、そのため「入り口に看板をつける」「石器など（出土したもの）の展示や、その写真の設

置」「冬は雪合戦」など、地元の子供目線のアイデアや直感が非常に参考になった。

(市長) 防災組織は作っていきたいと思う。「自助」まず自分でできること、どう動くか、「共助」お互いに近所の人や地域の人とどう動くか、助け合うのかを考えるきっかけが無かった。

これらを考えることや、組織を地域ごとに作っていきたいと思っている。地域防災計画も見直していきたい。

(町の幸福論について) 子どもならではの良い目線だと思う。料理はメニューを変えるなど、できることからやりたい。美人の湯については令和2年度中に方向性を出したいと思う。

(教育長) 市内の他の小学校もふるさと加茂をどうしたらよいか。加茂の自然をどのように考えたら良いかなど総合的な学習に取り組んでいる。子どもたちが加茂を好きになる授業を行っている。

(質問・意見) 財政状況が厳しくないけれど市民負担が増える。これは(財政が)厳しいからではないか。三条市など他の自治体はどうか。

(市長) 早期健全化基準にいつてしまったとか、財政再生基準まではいつていないということ。

それをいつたら厳しくないという人もいるかもしれないが、私はそう思いつてはいない。

文章が紛らわしい表現だった。(財政状況は) 厳しいと思いつている。

(企画財政課長) 基金の状況、三条市は財政調整基金で73億円、減債基金4億6千万円、その他37億円。燕市は財政調整基金27億円、減災基金6億円、その他7億8千万円。

(質問・意見) 地元の冬鳥越のバラ園、入園料もなく中途半端だ、やるならば入園料をとれるような方向に持つていつてほしい。

七谷庭球場、4面あるが使えるコートが1面だけで、庭球場にきた人が使えない状況だ。施設を充実(シャワーをつけるなど)するのか、やめるか。さらに、トイレが汚いという話を聞いた。

上町コミセンを廃止すると出先機関(市民サービスセンター)はどうなるのか、提案として中央コミセンの2階に移動したらどうか。

(市長) バラ園に限らず、リス園も入場料をとらないので、なかの整備まで手が回らないと言われる。そのような施設が加茂市にいつつかある。

資料集(案)にも書かれていつるがリス園の入園料をとつて、充実した施設にしたいと思いつている。

バラ園も検討してもいいかなと思いつた。

テニスコートについて、全部がきちつと整備されていない状況。全施設について廃止するのか、修繕していくのか施設の管理計画を立ててお示しする。

上町コミセンは廃止する考えだ。市民サービスセンターはどこかの市の施設に移す。中央コミセンだと2階になるので今より不便だと思つ、今は良い場所を探している。

(質問・意見) 上町コミセンの市民サービスセンターは、上(かみ)に住んでいる人が利用しやすいように作られたと思つ(西加茂へ行くと遠いから)。

(副市長) 施設の移設は決まっている。上町コミセンは人件費がかかるので、既存の公共施設で新たな人件費をかけず、さらに利便性を考えると1階が良い。

中央コミセンの1階は(お風呂があり)狭いので難しい。2階だと人が必要(人件費がかかる)。極力、

既存の公共施設で人件費がかからず、配線などができるところにしたい。

(質問・意見) 水道料金を値上げするが、水源池と三条からの水で十分足りるのか。

水源池が埋まってきている。上流部の橋は昔、水深が深かった。第2ダムも、ほとんど渇水になってくると川になっている状態。

(水道局長) 水源は、加茂市は三条の大谷ダムと宮寄上水源池、天神林浄水場の信濃川水系からの3箇所。1日12,000トン~13,000トンを使っている。

12,000トン~13,000トンの水は宮寄上水源池(5割)と、三条の大谷ダム(5割)だけで賄っている。

量的には十分だ。ダムの貯水量は、今現在は計画の半分だ。水量は十分取水できている。山が険しく土砂が堆積、今後はダムの浚渫を考えていくことが必要だ。

(質問・意見) 渇水のときは。

(水道局長) 昨年、宮寄上浄水場は絞ったが、その分、三条から多めに流してもらった。天神林も稼働した。三条と天神林の増により宮寄上浄水場からの水を減らす対応をとった。

(質問・意見) 職員給与の削減。これにより加茂市に勤めている人の給与に影響があるのではないか。

できるだけ給与は下げずに、まちも潤うようにしてはどうか。

(市長) 令和4年度まで削減するという時限的なもの。一般職員については組合と交渉中で合意しなければ削減しないことになっている。

削減するだけでなく、まちにお金が回っていく仕組みが必要だと思っている。

(質問・意見) 削減だけでは困る。まちの元気がなくなるとは困る。

(総務課長) まちに影響がでないようにということ。この中にも経営者の方がいらっしゃると思うので、ぜひ、ご協力ください。

今までも、市役所職員給与が下がると、まちの給与も下がるとかいはれるが、現実にはどうなのか調査したことがないので分からない。市役所が上がったときに、まちの方を下げるときもある。いずれにしても、注意してみたいと思う。

(副市長) 市役所から民間に影響が波及するのは怖い話だ。しかし、一般的な市井の声として役所の職員はたくさん給与をもらっているという声が多いと思われる。

市民負担を伴うことを実施する、負担金を多くとる、無料化を無くし、皆さんから負担をいただく中に、職員給与はまったく手を付けないということは、皆さんから納得していただけないと思っている。

そこで、いま組合と交渉中だ。

(職員給与は) 国家公務員に準じて、市の職員は人事院勧告にしたがって、給与が変動している。人事院は全国で12,500事業所、50人以上の従業員をかかえる事業所に対しアンケートを行い、おおむね55万人くらいのデータを集め、その結果から給与平均をだし、公務員給与と比較している。毎年、勧告に従い公務員が安ければ上げる、高ければ下げるというルールに従っている。

加茂市内に50人以上の従業員がいる企業は、そんなにはない訳で、現実には、比較したら市の職員給与

が高いというのが一般的ではないかと思っている。

市民感情を考えるとこれくらいは、身を削っていかないと、納得していただけないのではないかと。

(市長) 人件費の削減は、よほどのことがない限りするべきではないと思っている。

最後の最後のことだと思っている、今回の削減だけにしたいと考えている。

人件費の削減は、本当はするべきではないと思っているが、それだけ、財政が厳しいということを理解していただきたいと思う。

(質問・意見) 加茂市の人口減が心配だ、この対応策はあるのか、あったら教えてほしい。

また、2020年から人口減が抑えられるようになると良いと思う。

質問の時間をより多くとってほしい。

市長と同じ気持ちだが、職員の人件費削減はよくないと思う。

議員の報酬を来年1月からカットするが、その数字が今日の財政健全化推進計画(案)の最終ページに影響があるのか、その数字を示してほしい。

市長など三役は8月から、議員の削減は来年の1月から、なぜ実施時期に差がでたのか。

(市長) 人口減は加茂市の一番の大きな課題。そのためにも財源をつくって人口減少を食い止める策をとらなければならないと思っている。

子育て支援、子どもを生み育てやすい環境を整えることにもなる。

子どもを生む年代の女性が全国をみても減っている現実、根本的なところを加茂市だけで変えるのは難しい。そのなかでも、生み育てやすい環境や移住・定住制度、都会の人口の多いところから移ってきていただけるよう、もっと魅力あるまちを作っていく必要はあると思う。

議員報酬の削減については、議員さんが考え決めることなので、議員さん同士の話し合うところで時間差がでていると思う。

(企画財政課長) 議員報酬削減は年間約260万円、令和2～4年の任期中。この行財政健全化推進計画(案)に反映したい。

(副議長) (遅れたのは)議員18人の合意に時間がかかった。昨日、議会に提案した。

削減の率については、3%や10%のいろいろな意見が出て、それを調整した。

(白川議員) 8月以降、この件では議員同士で議論を積み重ねてきた。最終的には12月に最大会派が5%で決定したが、議員発案を出す際、他からクレームがあった。それを集約するため12月19日に全員で話し合い、3%になった。

月額293,100円の3%で8,793円、約9,000円で年間250～260万円の削減になった。議員報酬は20市中、いまでも15～16位の低さだ。この3%削減で16位になる。若い議員や、これから議員を目指す若い人達を後押しする意味で、ご理解していただきたい。

3年経過した次回の改選時には定数削減、大幅削減をあわせて進行している。最大会派として議会改革を推進していく。

(質問・意見) 介護施設は市内には平成園とさくら苑しかない。平成園は順番待ちで、さくら苑は長期に入れられない状況だ。さらに、さくら苑は特別養護老人ホームではなく、介護老人保健施設なので、特養からみれば費用が高い。今までとは違って外部の施設運営者の参入を認めるのか。

(市長) 外部の民間法人参入は大丈夫という状況。そういう意向があれば検討していく。ただ、具体的な話はないが、参入を拒んではない。

(質問・意見) 災害時の安全安心は理解できた。日常の生活のなかでの安全安心が気になる。

清掃センターごみ焼却施設のダイオキシンの問題、大きなネズミの問題など管理はどうなっているか。

保健師さんが退職した場合も採用抑制するのか。

新加茂病院が救急車を受け入れないと聞いたがどうなのか。

(市長) 日々の安全安心、健康、医療に関することも不安を解消できるようにしていきたいし、事業も行っていきたいと思う。

保健師が今のままでは足りないのは認識している。できれば増やしたいと思っている。一度に多くは増やせないし、応募も少ない状況だ。半減(新規職員採用の抑制で退職者の半数程度を採用)するのは違う。

(健康課長) 加茂病院が(救急車を)受け入れないことはない。専門の医師(当直の医師)がいなくて、どうしても受け入れられなかったのでは。13科のローテーションで医師が合わない現実がある。

急性期は県央基幹病院にという話が、方向性としてでている。

現状は消防の救命士が救急車に乗っており、そこで判断を行い医療機関へ行くことになっている。

ファーストタッチで症状が分かるものは別だが、応急診療所へまわし、まずは最初に先生から見てもらうことが重要だと消防も言っている。

加茂病院のことは院長と話す機会があったら確認してみたい。

保健師については障害の関係や、訪問など、いろいろな事業が増えている。保健師は足りない状況だ、市役所内での適材適所の配置や、募集をしているが、来てないのが現状だ。現職の保健師から働きかけをしてもらい、いろいろなところへ声がけしてもらっている状況。

なんとか増やしていき、皆さんの健康予防に力をいれなければならない時代だと思っている。大学などにも保健師の声がけをやっている状況だ。なんとかしていきたいと考えている。

(加茂市・田上町消防衛生保育組合事務局長) ごみ焼却施設のダイオキシン類について。

2つの炉のうち1つがダイオキシン類の基準値を超えた。1炉は5ナノグラムの基準値をクリアしているので稼働を続けている。

問題となった1炉は修理を続け、6月に基準値をクリアしたので、いまは使用している。

毎年、ダイオキシン類の検査を6～7月に調査を行っている。施設は昭和55年にでき、40年位たっている古い施設なので、事前に検査前に修理を重ね基準値をクリアするようにしている。安全に燃やしているので安心してください。

(質問・意見) 移住定住の補助金について。

仲町に住んでいるが商店街はお店が減ってきている。例えば、新潟経営大学の学生さんのなかにもおもしろい人がいるので、その人たちに閉めている店をチャレンジショップにし、新しい流れができればおもしろいと思う。移住・定住は家が大事だと思う。空き家に住んでもらってはどうかと思う。

(市長) 移住定住に関しては地域おこし協力隊を活用すると国から交付税が入ってくる。

市単独の制度を設けて、人を増やす政策や、チャレンジショップも必要だと思っている。

空き店舗があり、入りたいという人もいるが、貸したくないという家主もいる、このようなミスマッチを解消できる制度を考えていかなければならないと思っている。

(総務課長) 空き家バンクという全国ネットのホームページがある。

NPOの空き家対策協議会があり、打ち合わせ中なので、いずれ調整がいたら、載せていきたい。

(質問・意見) 七谷に空き家があるが、トイレが昔のもので使い勝手が悪い、その改修補助は。

(環境課長) 浄化槽の設備補助はある、だいたい3分の1くらい。基準額などがある、浄化槽に関しては補助金があるので環境課に相談してほしい。

(質問・意見) 田んぼを作っているが、自分のまわりには年寄りが多い。

農機具の買い替えができないから、それを機に農家をやめるという声もある。

農機具補助制度の補助率は、加茂市農業再生協議会が決めた数字に基づいて補助割合を決めたほうが良い。また、農機具補助制度の説明は農家組合長を通じて行っただけで終わりなのか。

(農林課長) 平成30年産米から国の制度が変わり、減反政策が廃止された。

それにより、生産目標が目安というかたちで示されるようになり、自由に作ってくださいということに。一方で、日本は人口減少に、生活様式の変化、主食米の消費も減少しているのが実態だ。

そのなかで、主食米減の政策を行っている。生産者に転作等の率を市が示しても、従わなければならないわけではない。

基準の補助率は、現状を考えると転作の達成率も活かしていかなければならない

農業団体の長からも意見を聞き、この補助率を決めたので理解してほしい。

市長がトップの加茂市農業再生協議会が毎年2月に会議を行い、国の動向、地域の状況なども考慮して転作面積等を決めている。

(市長) 農機具補助の考え方は農林課長が言ったとおり。

補助率を決めるときにいろいろなシミュレーションを行って補助がどうあるべきかを考えた。農機具補助をどうあるべきかと考えなければならない。農機具補助制度は他の市にはない制度。

後継者不足が問題だが、農機具補助があれば解消できるとは思っていない。もっと若い人が農業をしたい、受け継いでいきたい風になっていく必要があると思う。

決して農家の人を困らせたい訳ではない、農業は加茂市にとって重要な産業だと思っている。

農機具補助制度について、企画財政課長が資料集(案)を説明。

(質問・意見) 農業後継者育成費のカットについて、今後の農業後継者育成がどうなるのか。

(農林課長) 内容は主に事務費の削減。

※質問や意見交換のときに、一部聞き取れなかった部分もありました。ご了承ください。